

浦島伝説

令和3年12月14日

第30号



手塚治虫原作「雨ふり小僧」を鑑賞しました



12月13日(月)5・6校時に芸術鑑賞を行いました。今年は、劇団民話芸術座による「雨ふり小僧」を鑑賞しました。この作品の原作は、あの手塚治虫さんです。モウ太は山奥の分校のただ一人の中学1年生。月に一度町の本校に通うが、いつも町の生徒達にいじめられている。仲間がほしいと思う日々が続いていたある日、傘をかぶった雨ふり小僧と出会う。雨ふり小僧は、モウ太のはいている長靴を欲しがり、長靴をくれれば願いを3つかなえると約束する。珍しい宝物をもらう、本校のいじめっ子を懲らしめるという2つの願いがかなった後、分校が火事になってしまい、3つめの願いで、雨を降らせて火事を消す。モウ太は、橋の下で長靴を渡す約束をする。しかし、モウ太は町へ引越すことになり、その約束を忘れてしまう。40年の月日が流れたある日、モウ太は、自分の娘の言葉から雨ふり小僧との約束を思い出す。息を切らして約束の橋の下へ駆けつけたモウ太は、40年前の約束を信じ待ち続けている雨ふり小僧と再会し長靴を手渡すが、大人になったモウ太の前から、雨ふり小僧は消えてしまう。この作品には、人を信用・信頼することの大切さ・美しさ、そして人間の哀しさが描かれていました。モウ太を信じて疑わない雨ふり小僧の純真さ、無邪気さに感動させられた人も多かったのではないのでしょうか。

ルール・規則はなぜあるのか

もう20年以上も前のことですが、校則をゼロにし、服装も髪型も授業形態も自由にした東京の私立高校が話題になりました。開校した当時は人気がありましたが、数年後には生徒がゼロになって閉校してしまいました。その学校に通っていた生徒の一人がインタビューに答えて、「何でも自由でいいと言われて、最初は嬉しかったけど、自分も周囲の人も、1ヶ月くらいすると、学校に来ているという感覚みたいなものがなくなって、気が付くと、勉強だけでなくスポーツも他の何もがんばれないというか、しまれないというか、けじめがつかないというか、気合がはいらぬというか、・・・とにかく知らないうちにダメになっていました。僕だけでなく、周囲の友だちも同じように感じていました。僕は、その学校を退学して、公立の高校に入りなおしましたが、朝、制服に着替えることや、守らなければならない校則があると、こんなにも人間の気持ちは変わるのかと驚きました」

もう一つ、数年前に参加した講演会の中で印象に残っている話を紹介します。講演のテーマは、「人間社会にはルールや規則がなぜ存在するのか」でした。大空に舞い上がる凧(たこ)は、いつも一本の糸によって繋(つな)がれています。この糸さえなければ、自分は自由にどこへでも行けるのにと毎日思っていました。ある風が強い日、自分が繋がっている糸が切れてしまいました。その時、凧は「やった、これで自由だ。自分の思いどおりにできる」と喜んだそうです。ところが、糸が切れた凧は自分をコントロールすることができず、きりきり舞いしながら落ちていき、最後は地面にたたきつけられ、バラバラになってしまいました。凧は、その時に初めて、自分を繋いでいた糸が、実は、自分を自由に動き回らせてくれていただけでなく、自分を守ってくれていたことに気付いたのです。

県新人大会の記録

バドミントン(12月12日)

男子個人 シングルス3位 宮崎 央輔

三観地区新人大会の記録

卓球(12月4・11日)

男子団体 A 4位

予選リーグ 3勝0敗

決勝トーナメント 順々決勝 詫間 3 - 0 三豊

準決勝 詫間 2 - 3 三野津

3位決定戦 詫間 0 - 3 観音寺

女子団体 予選リーグ 0勝3敗

男子団体 B 予選リーグ 1勝1敗

決勝トーナメント1回戦 詫間 0 - 3 観音寺

男子個人 ベスト8 藤川 偉知

県大会出場 原 嶺桜、高瀬 嘉乃人、林 翔太

バレーボール(12月11・12日) 準優勝

予選トーナメント 1位

決勝トーナメント 順々決勝 詫間 2 - 0 豊中

準決勝 詫間 2 - 0 三豊

決勝 詫間 1 - 2 高瀬